長野県社協 災害ボランティア・福祉支援情報

2024年度 No.4

令和６年 10 月 15 日

長野県社協災害福祉支援本部　電話 026-226-1882　fax026-227-0137

ホームページ https://www.nsyakyo.or.jp/　メール vcenter@nsyakyo.or.jp

〔令和６年奥能登豪雨〕

９月 21 日からの大雨により、地震に加えて大きな被害を受けた奥能登地域に向けて、県外からの応援活動が再度求められています。災害ボランティアセンターの応援に派遣された県内社協職員からの報告を掲載します。

また、県社協では石川県輪島市への「ボラバン」企画を呼びかけています。詳しくは、次ページをご覧ください。

＜輪島市災害ボランティアセンター（ＶＣ）＞報告：山﨑 博之(長野県社協)

市街地中心を流れる河原田川及び支流の鳳至川の氾濫により広範囲にわたる浸水被害。また、門前地区、町野地区では大規模な土砂災害が発生。水害に関するニーズは 400 件を超える。輪島本所のＶＣ運営は毎日型で県のボラバス 100 人で実施。加えて、門前地区を週４日、町野地区を週３日、ボラバス各 40 人規模で運営。

輪島市町野地区(10/8 撮影)

門前・町野の両地区は、災害ＮＧＯ結が災害ＶＣと連携し、各ベースを設けて被災者支援活動を展開。泥かきと床下対応を半々で休日 100 人、平日 30 人程で展開。さらに、被害の大きい町野地区では、地元住民が設立した「町野復興プロジェクト実行委員会」（町プロ）が商店や農地等へのボランティア募集を行っている。

災害 NGO 結　町野ベース

被災した住民からは「地震被害からようやく立ち上がってきたところに今回の水害。さすがに心が折れた」「農地の復旧も先が見えず、この地を離れる人がさらに増えてしまう」という悲痛な声が聞こえた。

＜珠洲市災害ＶＣ＞報告：鈴木啓太(長野県社協)

市街地の浸水、各地の土砂災害も多数あり、地震ニーズに水害ニーズも加わり、400 件近くのニーズ対応が残っている。地震と水害を並行して運営し、ボランティア数は、平日 100 人、週末 150 人程。

地震に加えて豪雨災害とかつて体験したことがないほどの災害で、住民が今後の生活に関して不安を強く感じている印象があるが、珠洲市で暮らし続けたいという住民の声もあった。

現場も疲れが見える状況であるが、人と人との関わりを持ち続けたいと感じた。

活動風景(9/26 撮影)

＜能登町災害ＶＣ＞報告：唐木雅彦(南箕輪村社協)

水害の被害は柳田地区を中心に発生しており、能登町社協柳田支所（ささゆり荘）を拠点にＮＰＯと連携して対応している（週５日）。並行して本所で週末型の地震ＶＣを運営しているため。職員の疲労感が大きい。

ボランティアに入った高校生の「能登町で暮らし続けたいおじいちゃん、おばあちゃんが、一人でも多くここに住み続けられるなら、ボランティア活動は、全然大変だと感じません」という声を聞いて、改めてボランティアの必要性、ボランティア活動を支援できるような社協、社協と NPO との協働、それを運営できる社協職員の育成が必要だと感じた。

活動風景(10/11 撮影)